

子どもと家族

_____ さんに
役立たせるための
情報ポートフォリオ

お気に入りの写真をどうぞ

お誕生日 _____ 年 月 日

_____さんとご家族

ご両親：

ごきょうだい：

一緒に・近くに暮らしている他のご家族：

住所

電話：

FAX：

電子メール：

その他のこと： 特別なご近所さん、愛犬、等々

記入日 年 月 日

生育歴

出生時： 父 歳
母 歳
妊娠中の母の状態： 良 ・ 不良
在胎月数： 月 日
熟 ・ 早産： 月
安産 ・ 難産 (鉗子 ・ 吸引 ・ 帝王切開 ・ その他)
生下時体重： g
仮死： 無 ・ 有 (時間)
保育器使用： 無 ・ 有 (期間)
黄疸： 軽 ・ 重
栄養： 母乳 ・ 人工 ・ 混合
嚥下障害： 無 ・ 有 (摂食方法：)
離乳開始： 歳 月
首のすわり： 歳 月
おすわり： 歳 月
這う： 歳 月 (背這い・腹這い)
一人立ち： 歳 月
一人歩き： 歳 月
何らかのコミュニケーション方法で意図的に要求や人を求めるなどの様子がみられたとき (発声、身振り、実物を示す、その他) :
歳 月
発語： 歳 月

障害に気付いた時期：

障害が診断された時期：

診断した医療機関：

診断名：

既往症：

年月日	年齢	子どもと家族の歴史	医療・支援等、開始、変化等
年月日	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		
年月日頃	歳 月 頃		

気づきメモ

気づきメモ

ご家族が「フト」「ハット」気付いた

- ・子どもさんの成長
- ・子どもさんの変化
- ・見えの様子
- ・きこえの様子
- ・コミュニケーション
- ・家族の様子や変化
- ・その他なんでも

気楽に、自由に、時には線画などもいれてメモ書きしていただくファイルです。

日々子どもさんと暮らしているご家族のメモは子どもさんの支援に入る多くの専門家の人々にとっても、子どもさんをより深く理解するための、大切な情報になると思います。

将来、もし、例えば「その他」の気付メモだけを抜き取りたい時には、このファイルをコピーして、一つひとつをはさみで切り離して、

「その他」に印をつけたメモだけをあつめて、クリップで閉じることできます。

気楽に、自由に、楽しんで書いて下さい。

気づきメモ

気楽に自由に！

<p>____年__月__日</p> <p>____歳__月</p> <p><input type="checkbox"/> 見えの様子</p> <p><input type="checkbox"/> きこえの様子</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ハッと思ったこと</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>____年__月__日</p> <p>____歳__月</p> <p><input type="checkbox"/> 見えの様子</p> <p><input type="checkbox"/> きこえの様子</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ハッと思ったこと</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>____年__月__日</p> <p>____歳__月</p> <p><input type="checkbox"/> 見えの様子</p> <p><input type="checkbox"/> きこえの様子</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ハッと思ったこと</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>____年__月__日</p> <p>____歳__月</p> <p><input type="checkbox"/> 見えの様子</p> <p><input type="checkbox"/> きこえの様子</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ハッと思ったこと</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>____年__月__日</p> <p>____歳__月</p> <p><input type="checkbox"/> 見えの様子</p> <p><input type="checkbox"/> きこえの様子</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ハッと思ったこと</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>____年__月__日</p> <p>____歳__月</p> <p><input type="checkbox"/> 見えの様子</p> <p><input type="checkbox"/> きこえの様子</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ハッと思ったこと</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	

コミュニケーション

コミュニケーションの基本とコミュニケーション方法の選択

視覚と聴覚の両方に障害のある状態は、「盲ろう」と呼ばれています。
これは世界的に使われている用語です。

「盲ろう」といっても全盲+全ろうの子どもはとても数がすくないです。
そのほとんどが、何らかの視覚か聴覚、あるいは両方をつかうことができます。
それぞれの障害の程度は様々ですが、両方の遠感覚が侵されているために、
重度の情報とコミュニケーションの障害が生じます。

この項では、一人ひとりの盲ろうの子どものコミュニケーションについて整理・支援するために、以下の4ステップを提案しています。

- 1 「**かかわるときの基本4原則**」をコミュニケーションの基礎にして、
 - ・子どもと心の通うコミュニケーションを楽しみ、
 - ・子どもが見通しのたつ安心できる生活のなかで、
 - ・少しずつ世界を広げ、
 - ・自らの判断を試しながら生きていけるようなかかわりがもてるよう

「**かかわり手の自己点検**」を、ビデオを使って試みてみましょう。

- 2 「**視覚と聴覚の活用の可能性・限界と配慮について**」

- ・特にコミュニケーションを念頭において
- ・見えの支援ときこえの支援ファイルをつかって確認しましょう。

- 3 **子どもの活動の幅と内容、それに対応したコミュニケーションの状況**

- ・一週間の記録を活用して確認しましょう。

- 4 そして、2, 3の確認事項を念頭において、

子どもの現在の受信と発信の発達状況を表のうえで整理しましょう。

この4つの資料をつかって、

- ・子どものまわりの人々のコミュニケーションの在り方を見直し、
- ・子どもの日々の活動に根ざした、子どもの感覚と発達に適した、
- ・コミュニケーション方法（一種類ではなく複数）のシステムを整理し、
- ・子どもとまわりの人々がより確実に、より豊かにコミュニケーションできるようにしましょう。

盲ろう児とかかわるときの基本4原則

1 互いの感情が分かるよう、大人が積極的に感情を受け止め感情を伝えましょう。いろいろな感情がわき起こる体験を、子どもと豊かにもちましょう。

盲ろうの子どもにもっとも伝わりにくい情報の一つが、周囲の人の感情です。また、自分が表した感情も、受け手がいないと流れ去って行ってしまいます。自分の気持ちが表現でき、他の人の気持ちもわかるようにかかわりましょう。

- (1) 子どもの気持ちや感情を受け止めていることを、あなたのからだ全体で子どもに伝えましょう。すこしずつ、分かりやすい身振りで感情に名前をつけていきましょう。
- (2) あなたの気持ちや感情もからだ全体で、子どもに分かるように伝えましょう。

2 盲ろうとは重度の情報障害です。沢山の情報が抜け落ちたなかで、多くのことが唐突に起きる不安な世界にいます。基本的に必要な情報を、分かりやすく、一貫して伝えましょう。

- (1) そばにきたことをきちんと伝えましょう。(腕を軽く叩く等の合図をきめて)
・人が近くにきたかどうか分かりにくいのです。
- (2) 全員、自分が誰なのか、名前の印や合図を決めて、毎回会ったときにならざるをかって使ってみましょう。人の区別は大変難しいものです。疑似体験してみてください！
・腕輪一母、長い髭一父等
- (3) 次の活動や行く場所をかならず予告しましょう。見通しと安心に必要です。
・プールに行こう＝水着の実物、泳ぐまねの身振り等
- (4) 子どもから離れるときはかならずそれを伝えてから離れましょう。
・近くにいるのに無視されているのか、本当にいないのかが分かりません。
- (5) 子どもに何かを指示するとき、離れるとき、その「理由」も伝えましょう。これをする、物事の因果関係の理解が進み、行動の切り替えを納得してできるようになります。
・例1：「上着を着て」と服を子どもに触らせるだけでなく、「寒いから(体を震わす) / 私も着てるから(あなたの服を触らせる)、この上着をきよう。」と伝える。
・例2：そばを離れる合図の時に、貴方が買い物かごを持っているところを触らせる。帰ってきたら、買い物かごが食べ物で一杯になっていることを触らせる、等。
- (6) 活動の始まりと終わりは、情報が少ない盲ろう児には分かりにくいので、それが明確に分かるように、はっきりした合図を決めて子どもに伝えましょう。
・活動の準備と後片づけをすることは、始まりと終わりの最高の予告にもなります。

3 盲ろうの子ども「ために」してしまうのではなく「一緒に」何でもしましょう。情報障害のため、自分で体験してはじめて、周りで起きていることを理解できます。

日々の掃除、料理、洗濯物の整理、机の準備、できるだけ一緒にすることが、じつは世界を共に知っていく最善の方法です。

4 すこしでもできそうなことは、少しぐらい失敗しても、できる限り子どもにさせ、自信をつけるようにしましょう。可能なかぎり子どもが選択できるような状況を用意しましょう！「NO」も選択肢の一つです。選択のチャンスを提供したときは、最大限その決定を尊重することが大切です。大人にとって、時には不都合でも！

コミュ評価

盲ろうの子どもとかかわるときの自己点検チェックリスト

可能ならば、

- 1 子どもとかかわれている場面（生活の活動、あそび等、いくつか異なる場面）をビデオに15分ほど収録します。
- 2 係わり手がそれをゆっくりと見ながら、かかわりの基本原則に照らして自己点検をします。
- 3 または、家族や療育・教育担当者がともにビデオを見ながら、一つひとつ確認していくとともに、これからのより良いコミュニケーションを育てていくために話し合います。

その場合、ビデオに映っている係わり手の良いかかわりや、これまでに培った成果を確認することを忘れないように！

また、話し合いの中で、これまでのかかわりについて見直しをする必要があると考えられる場面がありましたら、単に否定するのではなく、ポジティブで具体的で実現可能な提案を行うことが大切です。

10の自己点検チェックリスト

- ① 子どもの感情を「あなたの気持ちがわかったよ」と、あなたは、受けとめたことを子どもにフィードバックしていましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
もししていない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ② あなたの感情を子どもに伝えようとしていましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
それは子どもにどのように受けとめられたようでしたか？
もししていない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ③ 子どもの近くに行ったとき、あなたは子どもに合図をしましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
子どもはどのように受けとめたようでしたか？
もし合図をしていない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？

- ④ 子どもにあなたが誰か、分かるように伝えていましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
それは子どもにどのように受けとめられたようでしたか？
もし伝えていない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ⑤ 次ぎに行く活動や行く先の予告を、あなたはしていましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
それは子どもにどのように受けとめられたようでしたか？
もし予告していない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ⑥ 子どもから離れるとき、あなたは合図をしていましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
それは子どもにどのように受けとめられたようでしたか？
もし合図をしていない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ⑦ 活動のはじめと終わりを、あなたは明確につたえていましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
それは子どもにどのように受けとめられたようでしたか？
もしつたえていない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ⑧ なにかを指示したとき、その理由を子どもに説明していましたか？
それはどのような方法でおこないましたか？
それは子どもにどのように受けとめられたようでしたか？
もし説明していない場合はどのようにしたらよいのでしょうか？
- ⑨ 子どもと一緒にできそうなことを、あなたが子どもの「ために」してしまい、子どもが情報を得る機会をは奪っていませんでしたか？
子どもと「一緒に」した活動はどのようなものがありましたか？
もしなければ、どのような活動なら一緒にやれそうですか？
- ⑩ 失敗をおそれず、子どもにいろいろなことをさせていましたか？
食べ物や遊びなど、子どもに選択の機会を提供していましたか？
あなたはどのような方法で選択して良いよ、と伝えましたか？
この次、子どもにトライさせられそうな活動は何でしょうか？

事象に自然に伴う状況/その一部/物や事が、その事象を予測させる自然の信号になっている。どのくらい様々な活動を子どもが経験して自然に先行する状況によって次の活動の予測がつくか。これが受信の土台になります。

事象に似ている物や事、活動に使う・伴う物や動きを、意図的に使ったり・つくったりしたものが信号になっている。

「似てる」ので分かりやすい

思い付く例を書いてみてください。その自然な合図を活用して、意図的なコミュニケーションに展開できます

触視覚 例：服を脱がす=お風呂と分かって機嫌良く手足をばたばたする

触視覚 例：赤い布をもった人がくる=シートブランコと分かって笑いがら近づく

視覚 例：給食のワゴンの音=食事とわかって口動かす

聴覚 例：ひげの感触とローションの香り=他人にさわられ不安だったのが、お父さんの匂いとひげをさわったたら落ち着く

嗅覚 例：消毒液の匂い=泣いて嫌がる (注射の記憶)

嗅覚 例

嗅覚 例

嗅覚 例

嗅覚 例

嗅覚 例

・その他

信号が、一つの塊なので素早く伝えられる。新しい事象に対して各々別な信号をつくる必要があり信号の数が増え。

事象にほとんど/まったく似ていない信号番号の数を、より多くつくることできる。

「似てない」から難しい、でも番号多い

有限個の分子の組み合わせで信号をつくるので、いくつからでも番号をつくり出せる

触視覚 例：活動の介助の初頭部分を予告に用いる信号
例：腋のしたを2回さわられると、抱かれると分かって両手をあげる

触視覚 例：関連する体の部分=食事とわかり口開ける
例：口を触れる=食事とわかり口開ける

触視覚 例：その活動でつかう実物
例：フロート=水遊びと分かって服ぬぐ

触視覚 例：実物の一部や断片
例：フロートの切れ端=同上

触視覚 例：関連する温度
例：湯の入ったポトル=足浴、足動かす

触視覚 例：身振り信号
例：身振り信号

視覚 例：色
例：写真
例：絵
例：線画

聴覚 例：関連する物の音
例：袋の音=せんべい

聴覚 例：擬音
例：音楽/歌

聴覚 例：特定の歌=食事

嗅覚 例：関連する匂い
例：入浴剤の匂い=お風呂

嗅覚 例

嗅覚 例

嗅覚 例

・その他

触視覚 例：マーク化した実物
例：実物の断片がより小さくなりほとんど実物と似ていないもの

触視覚 例：手話
例：手話

触視覚 例：指文字一文字に意味をつけて使う
例：指文字一文字に意味をつけて使う

触視覚 例：漢字
例：ひらがな一文字に意味を付けて使う

触視覚 例：色
例：色によるマーク

視覚 例：いくつかが音の塊として区別され、受信されていることば

聴覚 例

聴覚 例

聴覚 例

聴覚 例

聴覚 例

聴覚 例

聴覚 例

・その他

触覚 例：点字
例：指文字
例：タドマ法 (振動法)

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

触覚 例

・その他

受信 コミュニケーション方法の発達のな変化、お子さんの分かる方法を具体的にリストしてみよう

記入日 年 月 日 歳 月

事象に自然に伴う状況/その一部/物や事が、
その事象を予測させる自然の信号になっている
どのくらい様々な活動を子どもが経験していて
自然に先行する状況によって次の活動の予測が
つくか。 これを受信の土台になります。

事象に似ている物や事、活動に使用
う・伴う物や動きを、意図的に使っ
たり・つくったりしたものが信号に
なっている。
「似てる」ので分かりやすい

事象にほとんど/まったく似ていない信号
信号の数を、より多くつくることできる。

「似てない」から難しい、でも信号多い

信号が、一つの塊なので
素早く伝えられる。
新しい事象に対して各々
別な信号をつくる必要が
あり信号の数が増え。

有限個の分子の組み合わせで信号をつくるので、
いくらでも信号を
つくり出せる

感覚

感覚

感覚

感覚

<p>子どもが意図なく発した表情、声、体の向き、動きを、大人が感度高くその意味をくみ取って、対応する段階</p>	<p>左項とほとんど同じ行動を表すが、大人のフィードバックによって、子どもの「意図性」が明らかになっていく段階</p>	<p>左の二つの項の信号が身振りや指さし・視線信号に展開。事象に似ている物や事、活動に使う・伴う物や動きを、意図的に使ったり・つくったりしたもの「似てる」ので分かりやすい受信できるようになつた信号を発信にも使うようになる。</p>	<p>事象にほとんど/まったく似ていない信号の数を、より多くつくることができる。「似てない」から難しい、でも信号多い</p>
<p>思い付く例を書いてみて下さい。それが徐々に意図のあるコミュニケーションに展開していくのです。</p>	<p>左項の例1をとって、どのよう有意図的なコミュニケーション展開するか視てみましょう。</p>	<p>・身振り信号あるいは、活動の初頭部分が発信に用いられる 例：自分の体をゆらして揺れあそびを求め ・少しづつ、対応する活動に似ている手話単語を使い始める ・視線・指さし 例：赤い布見つめて、視線あるいは指さしてシーツブランコを求め ・関連する体の部分を触ることで発信 例：口を触れる=食事 ・その活動でつかう実物を示す 例：フロート=水遊を求め ・実物の一部や断片を示す 例：フロートの切れ端=同上 ・写真 例：テーパーを叩いて人よぶ ・絵 例：すでにある絵等を選び示す ・線画 例：一部分を自分で描く ・打音 例：全てを自分で描く ・音楽/歌やメロディやリズム 例：特定の歌=特定のあそびの要求 ・その他</p>	<p>・点字 ・指文字 ・タドマ法 (振動法) ・指文字 ・ひらがな文字 ・手のひらに書き ・キュードスビーチ ・ひらがな文字 ・かたかな文字 ・音声言語 ・その他</p> <p>上記それぞれに学習の段階に応じて発信の段階が数段ある。例えば点字もはじめから打ち出すのではなく、以下の段階を経る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 点字の単語選択 2 点字の活字並べ 3 点字をタイプで打つ
<p>例1：抱いて体をゆするあそびしていたのを止めると、すこしすると子どもが自分でゆする = もっとやってみると大人が読み取り = しかし、あそびを再開する前に、大人は、 1) 子どもが揺らした体感を触って「私に何かをつたえたんだね」とまます子どもにフィードバックする。 2) 子どもが揺らした体感を触って「このことなんだね」とたしかめる。 3) 子どもがもう一度体を揺らすのを待たせ、揺らさないまでもちよつと考へたり体を動かすことを見逃さない。 4) そこで始めて、「よし、じゃーはじめよう」とばかりに、再度こどもが創出した揺れあそびの合図を繰り返してから、初めて揺れ遊びを再開する。 5) 子どもが充分楽しんでから、また上記の経過を通す。子どもの合図として体を揺らすことが少なくなってきた。</p>	<p>・マーク化した実物を示す 例：実物の断片がより小さくなりほとんど実物と似ていないもの ・手話 ・指文字-文字に意味をつけて使う 例：指文字「な」で「なかざわ」を表す ・漢字 書いてある文字を示す機器をつかって書く ・ひらがな-文字に意味を付けて 書いてある文字を示す機器をつかって書く ・色によるマークを示す 例：赤=プレイルーム 黄=訓練室 青=体育館 緑=保健室 等 ・いくつかが音・抑揚等の塊としていくつかのことをばを発信 ・その他</p>	<p>形式が整った信号系 学習難しい、活動・概念の数大きい</p>	
<p>記入日 年 月 日 歳 月</p>	<p>大人の読みとりに依存 学習易しい、活動・概念の数少ない</p>	<p>大人の読みとりに依存 学習易しい、活動・概念の数少ない</p>	<p>大人の読みとりに依存 学習易しい、活動・概念の数少ない</p>

一週間の生活

一週間の子どもの生活

この記録はとても大切で有意義なものです。
ですが、骨の折れるものです。
ですから、一年のうちで、あまり気ぜわしくない時期に、一週間
取り組んでいただけたらと思います。一年に一回行いたい記録です。

盲ろうの子どもへの支援は、学校にいるときだけを考えたり、
家にいるときだけを考たりしては、十分ではないと言われて
います。偶発的な学習がきわめて少ないからです。

意図しなくても、その場にいるだけで、多くの、人間関係、多様な活動、因果関係等を、学んでいくことを偶発的な学習といえます。また、ほとんどの余暇活動や娯楽は、視覚と聴覚が使えないと楽しむことができません。

余暇活動の厳しい乏しさも、盲ろうの特徴です。

起きている時間全て、365日間、支援が必要です。(McInnes, 1999)

「一週間の子どもの生活」は、

7日間のサイクルでめぐる、こどもの生活の全体像を
係わるすべての人が共有して、
家庭と、地域に根ざした子どもの生活をより豊かにするため、
子どもにとって意味のある活動や学習を確認し、
より良くしていくためのものです。

この一週間の記録は、また、古い取り組みの見直しや
新しい取り組みを創造していく素材にもなりえます。

家族と支援者それぞれが果たしている役割を
全体のシステムと7日間の時の流れのなかで確認することは、
お互いがより支え合い、補い合うきっかけを与えてくれることと思います。

この一週間の間に複数の支援機関に子どもは通っている可能性があります。

お忙しいところ恐縮ですが、担当の先生にはこの主旨をご理解いただき、
支援機関にいる間の子どもの活動の様子等についてご記入いただきたく
ご協力をお願い申し上げます。

記録用紙をコピーして、担当の先生にお渡しいたします。そこで子ども
が過ごしている時間についてのみ、ご記録をお願いいたします。
ご家族にお返しいただいたときに、記録された部分を切り取って、
ご家族が書き込まれた記録用紙に張り付けて完成するようになっています。

<月曜日>

年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者：

支援機関等・記入者：

時間	<ul style="list-style-type: none">活動の内容：トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、(一人/他者と)学習、探索、一人で退屈しのぎをするなどについて、内容をメモしてください <hr/> <ul style="list-style-type: none">大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の感情なども子どもに伝えようとしていますか？子どもはそれが分かりますか？子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていきますか？	活動をするにあたって、どんなサポートが必要でしたか？
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		

<月曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で/介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		

<火曜日>

年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者:

支援機関等・記入者:

時間	・活動の内容: トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、 (一人/他者と)学習、探索、一人で退屈しのぎをする などについて、内容をメモしてください ----- ・大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の 感情なども子どもに伝えようとしていますか? ・子どもはそれが分かりますか? 子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていますか?	活動をするにあたって、どんな サポートが必要でしたか?
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		

<火曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で/介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		

<水曜日>

年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者:

支援機関等・記入者:

時間	・活動の内容: トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、 (一人/他者と) 学習、探索、一人で退屈しのぎをする などについて、内容をメモしてください ----- ・大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の 感情なども子どもに伝えようとしていますか? ・子どもはそれが分かりますか? 子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていますか?	活動をするにあたって、どんな サポートが必要でしたか?
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		

<水曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で／介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		

<木曜日>

年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者:

支援機関等・記入者:

時間	<p>・活動の内容: トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、(一人/他者と)学習、探索、一人で退屈しのぎをするなどについて、内容をメモしてください</p> <p>-----</p> <p>・大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の感情なども子どもに伝えようとしていますか?</p> <p>・子どもはそれが分かりますか?</p> <p>子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていきますか?</p>	活動をするにあたって、どんなサポートが必要でしたか?
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		

<木曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で/介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		

<金曜日>

年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者：

支援機関等・記入者：

時間	・活動の内容：トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、 (一人/他者と)学習、探索、一人で退屈しのぎをする などについて、内容をメモしてください ----- ・大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の 感情なども子どもに伝えようとしていますか？ ・子どもはそれが分かりますか？ 子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていきますか？	活動をするにあたって、どんな サポートが必要でしたか？
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		

<金曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で/介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		

<土曜日> 年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者： _____ 支援機関等・記入者： _____

時間	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容：トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、(一人/他者と)学習、探索、一人で退屈しのぎをするなどについて、内容をメモしてください ----- ・大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の感情なども子どもに伝えようとしていますか？ ・子どもはそれが分かりますか？ 子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていきますか？ 	活動をするにあたって、どんなサポートが必要でしたか？
6:00		
.....
.....
7:00		
.....
.....
8:00		
.....
.....
9:00		
.....
.....
10:00		
.....
.....
11:00		
.....
.....
12:00		
.....
.....
13:00		
.....
.....
14:00		
.....
.....

<土曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で/介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		

<日曜日>

年 月 日 (歳 月)

家庭・記入者：

支援機関等・記入者：

時間	<ul style="list-style-type: none">・活動の内容：トイレ・着替えなどの日常生活、あそび、(一人/他者と)学習、探索、一人で退屈しのぎをするなどについて、内容をメモしてください <hr/> <ul style="list-style-type: none">・大人はどうやって、活動の予告・指示等を伝え、自分の感情なども子どもに伝えようとしていますか？・子どもはそれが分かりますか？・子どもは要求や感情などを大人にどう伝えていきますか？	活動をするにあたって、どんなサポートが必要でしたか？
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		

<日曜日>

15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	食べた物は何ですか？	一人で／介助され食事、食事をめぐるコミュニケーション、準備と後片づけの参加、等
朝食		
昼食		
夕食		